

教頭会報

栃木県公立小中学校教頭会

発行者 平 本 宰 己

編集 広 報 部

— も く じ —

◎会長あいさつ	1	◎特色ある学校	6
◎令和2年度役員紹介	2	◎地区だより	7
		◎ひろば・編集後記	8

会長あいさつ

子供と学校にとっての「得意なもの」とは ～朝ドラ「エール」を観て思うこと～

宇都宮市立東小学校 平 本 宰 己



昨年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策の最中、今年度より新学習指導要領が小学校で全面实施され、中学校では来年度に全面实施を迎えようとしています。学校再開後は、授業時数の確保のために教育課程の見直しや、日課表等の工夫をしながらの取組が、待ったなしで行われ、どの学校も前例にない慌ただしい日々になっていることと思います。

さて、本会では、第12期1年目を迎えた全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を受けて研究を進めていますが、主題のキーワード「未来を生きる力」と「魅力ある学校づくり」について、先日、我が家で欠かさず視聴しているNHKの朝ドラ「エール」からハッと思うことがありました。「船頭可愛や」、「長崎の鐘」、「オリンピック・マーチ」、「栄冠は君に輝く」等の数々の名曲を残した「古関裕而」氏をモデルに、窪田正孝さん演じる古山裕一が主人公のドラマの一場面に、その鍵となる言葉があったのです。5年生だった裕一が、北原白秋の詩に素敵な曲をつけ、その音楽の才能に気付いた担任の藤堂先生が、裕一の家を訪問した際、裕一に次のように熱く語りかけます。「人よりほんの少し努力するのが辛くなくて、ほんの少し簡単にできること、それがお前の『得意なもの』だ。それが見つかれば、しがみつけ。必ず道は開く」……。「得意なもの」のとらえ方の一例を知り、私は目からうろこが落ちる思いでした。藤堂先生の視点から子供の「得意なもの」を見つけ、将来の職へとつながるような「未来を生きる力」を育むことができるとしたら、何と素晴らしいことでしょうか。同様に学校も教職員・家庭・地域が「得意なもの」を互いに少しずつ出し合いながら統合し、同じベクトルで取り組んでいければ、「魅力ある学校づくり」がより鮮明になると考えます。子供にとっての「得意なもの」が「未来を生きる力」であり、学校にとっての「得意なもの」とは、教職員の結束力・チーム力や地域の資源で、それらが「魅力ある学校づくり」に欠かせないものであると、朝ドラ「エール」を観て改めて思いました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、日々子供たちの安全を最優先に考え、教育に携わっている私たち教職員が、ゆとりをもって子供たちの「未来を生きる力」を育んでいくためには、これまで以上に人的・物的支援等の教育環境の整備が必要です。こうした未来の読めない多難な時だからこそ、私たち教頭会は、職能団体として喫緊の課題について研修し得られた課題解決策や成果をもとに、声を大に政策提言として国に要請したり、コロナ禍における「働き方改革」を推進したりすることが重要だと思います。教職員と子供たちにたくさんの笑顔が見られるよう、そして520名の会員が心をついに結束し合い、明るい未来が切り開けるように皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

役 員 紹 介



会長
平本 宰己
(宇都宮市立東小)

県内10支部長様をはじめ会員の皆様、役員と事務局の方々のご支援・ご協力をいただきながら、結成58年目を迎える教頭会長として、皆様の期待に応えられるよう真摯に会の運営に尽くす所存です。制限のかかる中、全国の役員ともWEB会議等で連携を図りつつ、教頭職の地位の向上に努めてまいります。



副会長
渡邊 順一
(宇都宮市立陽南中)

令和2年度副会長を務めさせていただくことになりました。昨年度は会長として皆様とともに活動を推進してまいりましたが、今年度は、平本会長を助けて微力を尽くす覚悟しております。コロナ禍の中ですので皆様もご自愛くださいますようお願いいたします。



副会長
齋藤 知之
(宇都宮市立細谷小)

今年度副会長を務めさせていただくことになりました。予測困難な時代とはいえ、1年前に、現在の状況がまさかこのようになるとうは誰も予測していなかったのではないのでしょうか。このようなときだからこそ、教頭同士のネットワークを大事にしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



副会長
鈴木 則利
(宇都宮市立陽東中)

今年度、副会長を務めさせていただきます。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、休校という前代未聞の状況下でスタートしましたが、こんな時にこそ管理職の手腕が問われます。コロナ渦に巻き込まれることなく、皆さんと一緒に頑張ってまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



副会長
森山 泉恵
(日光市立落合東小)

私は「ワクワク」という言葉が好きです。「ワクワクを追求することこそ、もっとも責任ある生き方」なのだそうです。(マイク・マクナス著「ソース」より)。私のワクワクは、ドライブ、カラオケ、映画鑑賞、山登りなど……最近では、マスク作りも。今年度は感染症対応のため活動が滞る場面もありますが、会長を補佐し、学校のワクワクに貢献できる教頭会として、お役に立てればと思ひています。



副会長
浅海 紀幸
(足利市立小俣小)

令和2年度副会長を務めさせていただきます。微力ではありますが、令和2年度の活動方針に基づき、会員の先生方との情報交換を深め、課題解決に向けて組織的に研究が進められるように努力します。そして、子供たち一人一人が大いに力を発揮できる教育環境づくりに取り組みたいと思ひます。



幹事長
齋藤 弘明
(宇都宮市立姿川中)

幹事長として、今年度の事業や教育諸団体との連携、教育環境整備等の要請活動に全力を尽くしてまいります。新型コロナウイルスの終息が見通せない中ですが、教頭会のネットワークや仲間とのコミュニケーションを大切に安心・安全な学校運営に努めていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。



庶務
新村 雅司
(宇都宮市立古里中)

今年で2年目になりました。理事会や研修会の司会進行を滞りなく進め、有意義なものになるよう努めていきます。また、会員皆様にお集まりいただいた時間を有効活用することも意識して取り組んでいきます。今年度もよろしくお願ひいたします。



庶務
藍原 高秀
(宇都宮市立姿川第一小)

この度、栃木県公立小中学校教頭会の役員として、庶務を担当することとなりました。初めての役員ではありますが、県教頭会の目的に沿った活動方針のもと、教頭会の運営がスムーズにいくよう、各種会議の進行等を務め、微力ながら取り組んでまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



会計
石井 圭子
(宇都宮市立中央小)

昨年度に引き続き会計担当となりました。昨年度は、新潟県で行われた関プロ教頭会研究大会に参加し、県外の多くの先生方と情報交換ができ大変勉強になりました。今年度も教頭会の運営に関わる機会をいただけたことに感謝し、教頭会、先生方の役に立てるよう務めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



会計
徳田 洋子
(宇都宮市立築瀬小)

会計を担当して、2年目になります。市の会計を経験して教頭会の活動がよく分かってきましたが、昨年度から県の会計になり、小池先生や竹内さんのお力を借りて、さらに県や全国の教頭会の活動について知ることができました。今年度は様々な研修が中止等になっていますが、他の先生方と共に今できることをしっかりやっていきたいと思ひます。



全国総務・調査部員
津久井 文
(宇都宮市立平石中央小)

今年度より、全国公立学校教頭会専門部員として、県教頭会の役員をお引き受けすることになりました。未熟ではありますが、総務・調査部の仕事を通して、教育現場の現状や実態を的確に把握するとともに、全国と県とのパイプ役として情報発信することができるよう、精一杯努めてまいりたいと思ひます。



全国研究部員
加藤 雅継
(宇都宮市立豊郷南小)

着任以来、たくさん先輩方から、仕事へのアドバイスをいただきました。本当にありがたく、感謝しながら日々を過ごしております。今年度、全国研究部員として様々なことを学ばせていただき、何かの形でお伝えできればと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。



研究部長
大木 和明
(宇都宮市立明保小)

令和2年度県教頭会研究部長を務めさせていただきます。第12期1年目を迎える今年、全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を受け、子供たちにとっても教員にとっても「魅力ある学校づくり」を具現化するため、これまでの研究の成果と課題を踏まえ、深化・発展していきたいと考えております。



調査部長
水口 武雄
(宇都宮市立雀宮南小)

今年度も調査部長を仰せつかりました。教育現場の現状や実態を的確に把握し、要請活動や研究発表への活用を図るための全公教個人調査では、会員の皆様方に大変お世話になっているところであります。この調査結果を県内公立小中学校でさらに有効活用していただけるよう、一層の分析・考察に努めてまいりますので、今後ともご理解・ご協力をお願いいたします。



広報部長
吉田 晋
(宇都宮市立国本西小)

今年度、広報部長を務めさせていただきましたことになりました。今般の情勢により、様々な活動が制限されておりますが、今年度も教頭会報は年2回発行させていただくことになりました。教頭会事務局の皆様、役員の皆様と連携を取りながら進めていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



要請部長
鍋谷 政善
(那須塩原市立東原小)

今年度、要請部長を仰せつかりました。昨年度末から、新型コロナ感染拡大防止措置で、様々な活動が制限されております。だからこそ、現場で今、必要としていることを要請していきたいと思ひます。皆様からのご意見、ご要望をまとめてまいります。ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



I T部長
若林 直行
(宇都宮市立西が岡小)

今年度I T部を担当させていただくことになりました。平本会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら子供たちにとっても、教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力の程どうぞよろしくお願ひいたします。



副幹事長
麦倉 克英
(宇都宮市立豊郷北小)

様々な課題が山積する昨今、学校や地域において教頭が果たす役割はより重要になっています。教頭会としても会員相互が情報を共有して対処する必要があると考えます。今年度は自粛や制約が伴う活動となりますが、会長のご指導の下、精一杯取り組む所存ですので、ご協力のほどよろしく願いいたします。



幹事
保田 方美
(宇都宮市立城山西小)

昨年度より教頭会の幹事をさせていただいており、今年度2年目となります。今年度は新型コロナウイルス感染症対策など、新たな課題に対する対応が求められ、活動も例年通りとは行かないかもしれません。今やるべき、できることに向き合っていこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。



幹事
小埜 真穂
(上三川町立本郷小)

今年度、幹事を務めさせていただくことになりました。昨年度は全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会に参加させていただき、貴重な体験をすることができました。幹事の事は初めてですが、周りの先生方に教えていただきながら頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



幹事
角田 好弘
(宇都宮市立瑞穂野中)

教頭2年目を迎え、県の教頭会幹事を仰せつかりました。教頭職の業務内容は多岐にわたり本当に大変な職務だと痛感しております。守備範囲の広い教頭を目指し、安全で安心できる教育環境を提供すべく日々努力してまいります。県の教頭会では微力ながら協力させていただきますので、よろしく願いいたします。



幹事
岡安 明子
(那須烏山市立江川小)

今年度、教頭会幹事を初めて務めさせていただきます。新学習指導要領全面实施や働き方改革に加え、感染症対策にも教頭としてのリーダーシップが求められる年となりました。教頭会では、会員皆様との協働により課題の解決に取り組んでいきたいと考えています。よろしく願いいたします。



幹事
青柳 正
(真岡市立亀山小)

県教頭会の幹事として今年で3年目となります。今年は、総会や研究大会が紙面発表となり、今までのような役割が果たせませんが、会議等への積極的な参加によって県教頭会で得られた情報などを地区へ還元できたらと思います。地区や県の教頭会の発展に少しでも寄与できるように頑張りたいです。



幹事
中田 伸幸
(栃木市立小野寺小)

私の勤務校は、小野寺北小と小野寺南小とが統合してできた新しい学校です。両校とも小規模だったため、全校児童は97名。1か月足らずで皆仲良くなり、笑顔で元気に過ごしています。今年度は研修会があまりできませんが、様々な意味で見直しを図るいいチャンスです。教頭会のさらなる発展のために尽くしていきたいです。



幹事
大江 満仁
(那須塩原市立日新中)

この度、昨年度に引き続き令和2年度栃木県公立小中学校教頭会の幹事を仰せつかりました。コロナ禍でさらに厳しくなる学校教育活動に対し、本会を通して少しでも会員の力になれるように微力ではありますが力を尽くしてまいります。今後とも引き続き皆様のご指導、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



幹事
飯塚 雅美
(佐野市立常盤中)

県教頭会の役員として、2年ちょっと共に過ごしてきました。役員は全部で30数名おりますが、事務局の2人を中心にとっても協力的で機能的な組織だと思います。役員会は、意見がどんどん出てきて、短時間で内容の濃いものとなります。この会議の運営方法は、自校の職員会議にも生きています。



研究副部長
北條 諭
(宇都宮市立国本中央小)

昨年度から引き続き、研究部の副部長を務めさせていただきます。勤務校の紹介と自分の抱負をからめて……。本校は、地域から「花と緑と小鳥の学校」という愛称で呼ばれています。ということで、私の抱負は、皆さんと、たくさんはなしながら、よりどりみどりのアイデアをちょこっと、りようさせていただきますことです。



研究副部長
須田浩太郎
(宇都宮市立岡本西小)

本年度、専門部役員である研究副部長を務めさせていただきますことになりました。学校管理運営及び教育上の諸問題について、平本会長の下、本部役員の先生方や大木研究部長・研究部の先生方と連携しながら、研究・協議を深めていければと思っております。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



調査副部長
半田 祥正
(宇都宮市立雀宮中央小)

この度異動になり、市南部の雀宮中央小に勤務することになりました。前任校と比べると、児童数は7倍強、職員数も3倍近くになりました。マスクから上しか顔が分からず、なかなか子供の名前と顔が覚えられません…。県教頭会のお手伝いも4年目に入ります。調査部副部長として自分もさらに勉強していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



調査副部長
吉澤 勝
(上三川町立明治中)

今年度、調査副部長として、全国公立学校教頭会の調査を通し、副校長・教頭職の現状の把握に努め、教頭会の組織の発展・強化および副校長・教頭の働き方改革に向けた活動に尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



広報副部長
山口 和彦
(宇都宮市立田原小)

今年度、広報部の副部長を務めさせていただきますことになりました。広報部長や広報部の皆様のお力添えをいただきながら、教頭会報の作成を進めていこうと思っております。かつてない状況下ではありますが、できることを精一杯行っていこうと考えています。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



広報副部長
大川 美子
(宇都宮市立旭中)

今年度より広報部として関わらせていただきます。まず、慌ただしい中、本号に原稿を寄せていただいた皆様にお礼申し上げます。今後も会員相互の交流の場、情報交換の場となるよう、小池事務局長様、竹内事務局員様のお力添えをいただきながら紙面の充実に向けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



要請副部長
田崎 恭男
(宇都宮市立清原東小)

今年度は、コロナウィルス感染症の影響で本来の活動がほとんど実施できない現状ですが、本会において要請部という重要な役割を与えられ、本県における義務教育の更なる充実に向けて仕事ができることを光栄に思います。教育現場からの皆様の声を受け、諸条件の整備・充実に向け、微力ながら尽力したいと思います。



I T 副部長
金橋由美子
(宇都宮市立清原中)

今年度、I T副部長を務めさせていただきますことになりました。予測困難な時代の到来といいますが、教育コンテンツやオンライン授業など、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による学校現場でのI C T活用は、想定以上の進化を感じます。未来を担う子供たちに学校は何ができるのか、日々、自問自答をしています。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



I T 副部長
吉住 康平
(宇都宮市立豊郷中)

今年度新たな学校に赴任しました。学校のスローガンは「感動のある学校 豊郷中」です。学校の実態も分からず、教育活動に制限があるなか、何ができるか模索中です。こういう状況だからこそ、情報の共有は大切だと思います。I T部の役員として少しでも貢献できるように前向きに取り組みます。

地域学校園で取り組む「いじめゼロ運動」

宇都宮市立古里中学校 新村 雅 司

本校は宇都宮市北部に位置する生徒数350名程度の中規模校です。学区の東端には鬼怒川が流れ、北側は田園風景が広がる自然豊かな地域です。本校創立は昭和22年、旧河内町の基幹校と位置付けられ、広大な敷地を有し東西150mにも伸びた校舎があります。「青雲の志」「友垣の和」「冴えた知性」の言葉を教育目標として、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っており、「うつのみや学校マネジメントアンケート」において自己肯定感の高いことが数値として表れています。

本校の特色の一つとしては、地域学校園で連携した「いじめゼロ運動」の取組があります。生徒会執行部がいじめ撲滅のための劇「ピンクのシャツのブライアン」を全校集会で発表し、いじめを見て見ぬふりをしなかった勇気ある生徒たちの行動を表現しました。そして、この劇を小学校でも発表することで、連携したいじめ撲滅運動を行いました。また、いじめ防止の標語およびポスターを作成し、3校それぞれの学校に掲示することにより、同一歩調でいじめゼロ運動の啓発活動を行っています。さらに、小中連携あいさつ運動を年2回設定し、中学生が小学校に出向いて参加することにより、連携してより良い人間関係形成を図っています。一方、地域への啓発活動として地域協議会主催による小中3校による親学講座を開催しました。宇都宮市教育委員会より講師を招き、学校園内のいじめゼロに向けた取組を発表し、地域の役割を具体的に検討した後、演題『いじめについて考えよう』の講話で理解を深めました。

変化の激しいこれからの社会を力強く生き抜くために、生徒たちにはこれまで以上に多様な価値観や考え方を持つ他者に対しても、豊かな人間関係を築いていくことが求められます。そこで、「いじめゼロ運動」を継続発展させることで、より良い人間関係を築くために、人の気持ちを考えられる生徒の育成を目指しています。



いじめ撲滅のための劇

地域との協働により復活した伝統行事 ～大捻縄引き～

大田原市立佐良土小学校 君 健一郎

本校是那珂川と箒川の2つの清流に囲まれた緑豊かな田園地帯にある、児童数45名の小規模校です。学校近く的那珂川河畔には、全国的にも珍しい淡水魚水族館の「なかがわ水遊園」があり、毎年週末には多くの来園客で賑わっています。

歴史も古く、古代には那須地区の中心、旧湯津上村の時代には村の中心として栄えた本地区も児童数が年々減少しています。それに伴って、地域の活性化が大きな課題となっています。そこで、平成29年に、「地域の子供たちにもこの伝統行事を体験させたい」「ふるさと佐良土地域全体を活性化させたい」という熱い思いをもっている青壮年たちが声を上げ、22年ぶりに国選択無形民俗文化財でもある「大捻縄引き（だいもじひき）」と呼ばれる地域の行事が復活しました。大捻縄引きとは、毎年お盆の時期にたくさんの稲ワラを早朝から半日かけてよりあげて作った、太さ最大50センチメートル全長50メートルの巨大な大縄を大勢の人たちで引き合う行事です。



大捻縄引きの様子



クビレづくり体験

学校では、子供たちにこの伝統行事を肌で感じ、触れてもらうために実行委員会の方を招いて、大縄の材料であるワラの小束「クビレ」づくりの体験会を実施しています。この体験活動を通して地域の方とのふれあいを深め、佐良土地域のよさを再確認し、さらにはこの伝統行事を大切に、引き継いでいこうとする気持ちを育むことができました。残念ながら今年は行事が中止となってしまいましたが、学校と地域が一体となって取り組んでいるこの行事が、地域の活性化の一助となり、今後も伝統行事としていつまでも行われていくことを切に願っています。

今こそ「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を

下都賀地区小中学校教頭会長 鈴木 寧子

本地区では第12期全国統一研究主題の下、小学校では「教職員の専門性に関する課題」、中学校では「教育環境整備に関する課題（教育行財政に関する課題）」について今年度から3か年の計画で研究を推進しています。

新学習指導要領が小学校では今年度から、中学校では来年度から全面実施となります。各学校では、児童生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下、学習指導要領が目指す学力観に立ち、日々の教育活動を行っています。子供たちは、学校での学びを通して、未来を切り拓く力を身に付け、将来、予測困難な社会を生き抜いていかなければなりません。

本地区でも、目の前の子供たちの10年後、20年後の未来を想像して、今やるべきことに地道に取り組んでいかななくてはならないと考え、研究に取り組んでおります。年度当初に、市町単位で5つに分かれている各部会で、地域の特性やこれまでの研究の成果と課題などを踏まえ、研究課題を設定しました。今期の各部会のキーワードは、「地域」、「小中一貫」、「組織力」、「マネジメント」などです。今、学校が取り組むべき課題とこれから求められる学校のあるべき姿がそれらの言葉に凝縮されています。今後、各部会で課題に基づき仮説を立て、実践し、検証した上で改善を重ね、3年間の継続した研究推進を目指していく予定です。初年度である今年度は、実態と現状を適切に把握し、目標を明確に設定した上で、具体的な手立ての検討と効果的な取組の共有を図ってまいります。

これまで誰も経験したことのない長期に渡る学校休業を経て、約3か月ぶりに再開した学校生活。子供たちの笑顔と元気な姿が戻り、学校の果たすべき役割や存在の大きさを改めて実感しました。学校という存在が、子供たち、保護者や地域社会、そして私たち教職員にとって、魅力あふれるものであり、子供たちにとって未来を生き抜く力を育む場所であることを再確認し、今こそ地区一丸となり教頭としての使命を果たしていかななくてはならないと考えています。

塩谷地区小中学校教頭会の取組

塩谷地区小中学校教頭会長 岸 邦夫

塩谷地区小中学校教頭会は、矢板市12校、さくら市8校、塩谷町4校、高根沢町8校、県立1校、会員数35名で組織されています。

昨年度は、11月に地区で研究大会を開催し、「教職員の資質・能力の向上を図る教頭の在り方―協働する教職員組織を目指して―」をテーマに、村島恵美子先生（矢板市立東小学校教頭、現矢板市立川崎小学校長）が研究発表し、教頭として学校経営にどのように関わることが効果的であるかを示していただきました。また、男子100m予選でカール・ルイスと同じ組で走った経験があるソウル五輪4×100m R日本代表栗原浩司様（県立石橋高等学校教諭）をお招きし、「オリンピックの魅力とこれからのスポーツ」と題して講演をしていただきました。幼少期から現役時代、高校陸上部顧問としての数々のエピソードを交え、選手として、指導者としての在り様についての楽しい分かりやすいお話がありました。今年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本地区研究大会は中止となりました。

本会の今年度の研究については、全国統一研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を受け、本地区研究主題を「実践的指導力の向上を図る教頭の在り方 ―協働する教職員の育成を目指して―」として、進めることになりました。研究を進めるにあたり、3つの視点（①校内研修システムの工夫、②協働体制構築による資質・能力の向上、③学校運営参画意識の向上）を設け、推進することになりました。今年度は、研究の第1年次であり、研究の在り方や方向性を検討、共有していきます。市町教頭会ごとに、実態把握・課題分析を行い、3年間を見通した研究を計画・立案し、課題解決のための具体的な方策を検討し、実践をしていきます。

栃木県北方領土問題教育者会議

日光市立落合中学校 須江 信之

皆さんは、栃木県北方領土問題教育者会議という組織があるのをご存じでしょうか。北方領土問題というと、政治的、思想的なイメージを持つ方もいるかもしれませんが、国を挙げて取り組むべき、れっきとした問題の一つなのです。この問題に対しては、内閣府所管の独立行政法人「北対協」が活動を全国で展開しており、栃木県民会議の皆さんがその活動を県内で行っています。各都道府県の教育者会議は、それらの活動を受けて、児童生徒に対する啓発活動及び、領土教育の推進をするための組織で、栃木県でも平成29年に発足しました。

私は、平成26年に、生徒を引率して知床から根室までを巡り、北方領土を見たり、返還要求活動に携わる方々と交流したりする研修に参加しました。そして、これをきっかけに教育者会議に参加しています。私たち教育者会議は、このような組織が活動していることを皆さんに知ってもらうこと、新学習指導要領に組み込まれた領土学習に、私たちが持っている資料を活用してもらうことを目標として活動しています。北海道では中高生を中心に北方領土学習が熱心に行われており、返還要求活動も盛んに行われています。この問題を特別な地域の問題とせず、国民一人ひとりが少しでも問題意識を持ってもらえるように、今後も活動に取り組んでいきたいと思えます。

もったいない

益子町立益子小学校 荒山 造

我が家では、昭和末期に買ったCDプレーヤーが未だ現役です。当時給与の半分も使って購入し、長年大事に使っていました。10年前、突然液晶が表示しなくなっていました。メーカーでも修理不能との回答があったため、壊すのを覚悟で、カバーを開けてよくよく見ると、液晶両端の半田にクラック（ひび）が入って、通電していません。再度半田付けをすると、見事に液晶が復活しました。このときの感動が今も忘れられません。

続いて、以前勤務していた学校での出来事です。夏休み中の備品整理の際、廃棄備品置き場に行くと、理科で使う「電磁石」が置いてありました。乾電池1本で、人間一人を吊り上げられるアレです。よく見ると導線が外れていました。処分した職員が言うには、
「電池を入れてもだめなので……。」

同じ日、今度は算数の重さの授業で使う「上皿自動はかり」が置いてありました。上皿のねじが1本ないため、上皿がずれてしまう状態でした。処分した職員が言うには、
「こわれていたので……。」

当然、どちらも修理して、戻すことにしました。学校って、同じようなことはありませんか。もったいないおじさんの戯言でした。

自粛期間の楽しみ…手作りマスク

那珂川町立馬頭小学校 高堀 陽子

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での年度初め、文科省から「手作りマスク」を推奨する連絡があり、早速、各家庭にメール配信をした。マスクを作るという発想は、自分のなかにはなかったが、家庭にお願いした手前、自分でも作ってみようと、しばらく眠っていたミシンを引っ張り出して試作してみた。You Tubeの動画を参考にしながら、いろいろな色・柄の生地で作ってみたところ、思いのほか簡単、短時間で仕上がった。おまけに、妙に顔にフィットする。これは面白い、何より、自分の好みの色・柄で作れるのは、ファッションの一つのような感覚で、つぼにはまってしまった。それからは、テレビで見るコロナ関連の記者会見等でも、注目するのは話の内容では無く「手作りマスク」となった。〇〇知事のおしゃれなレースマスクや〇〇大臣の男前立体マスクなど様々なマスクを作っては、家族や遠方の友達に送り付け、自己満足に浸る日々、自粛期間中の巣ごもり生活にはうってつけの楽しみになった。今では、マスクを買うという発想がなくなった。

新型コロナウイルス感染症がまだまだ終息を見せてはいない現在であるが、「手作りマスク」がせめて正の遺産として語られる日を待つばかりである。

編集後記

新型コロナウイルス感染防止のため、3月2日から3か月間、臨時休校が続いていましたが、6月から本格的に学校が再開し、通常の当たり前の生活を取り戻すことができました。来年の東京オリンピックが開催される頃には、全世界の新型コロナウイルス感染がおさまり、無事オリンピックが開催されることを祈ります。

さて、第51号は、今般の情勢により、様々な活動が制限されておりますことから、県教頭会令和2年度の役員の皆様の自己紹介を中心に編集いたしました。

末筆ながら、お忙しい中原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。 (吉田)